うし、インド人は手でこねながら食べます。ドイツ人はヨーロッパでは第 1 次、第 2 次の世界大戦の殺戮のためにひどく評判が悪いし、フランス人は「ノーズアップ」とかいってお高くとまっているし、スイス人は、「フェンスシャッター」といって塀の上から様子を見物し、自分のところだけがよければ他はどうでもよい国と言われているのを耳にしました。ユダヤ人は、自分たちの宗教の休みの日は、勝手に会社を休んでいましたし、マンハッタンで休日に店を開いているのは、たいていユダヤ人の店でした。

日本人は果たしてどう思われているかわかりませんが、他の国から見れば、どこも同じようかもしれません。

ギリシャ神話の中には、母親殺し、近親相姦、神々の利権争い、男同士の愛、女同士の愛が書かれています。それらが全て体系と見ている大らかさがあります。アメリカでは男同士で結婚できる州もありますし、ニューヨーク・セントラルパークでは、男のみ、女のみが日光浴しているゾーンがあります。何が是で、何が否かということを認めてしまわなければならないことはありません。違うサイドを見る例をどれだけ多く持つことができるか、グレードをどれだけ予測できるかも重要なことに思えます。

私の会社では、設計図のメーカーリストに新しく記入するにあたっては、各　製造メーカーに、悪いところ、直したところを教えてもらうことをしております。どんな商品でも、必ずミスを重ねて、それを克服してよくなってきているはずです。

悪いところがありませんというセールスマンの話はどうしても納得がいきません。アメリカで私が働いた設計事務所では、5 年以上 Field Test が行われていない商品は採用しないという方針でした。カタログに表示されている商品を全て自分で分解し、触ってみているセールスマンの話は我々を説得させます。そこに協力があります。我々にとって気に入るセールスマンは我々の望んでいることをかなえてくれる人であります。レポートが欲しいといえば、我々が何時どの程度のものを欲しいかを教えてくれる人です。自分がいつできるかで答えをだす人は期待していないセールスマンです。世の中に失敗ということはあり得ないということをいつも考えています。この貴重な短い一生は、価値のあるものだと思います。

全てはその人の成長の過程での記録でもありますし、日々生き、生活していく中で新たな自分を発見していくものと考えています。

我々の会社では、センタードロウイングといって、図面などで、スケッチや下書きを全て起こして一冊に製本をするよう努めています。最終結果だけ残して途中過程を捨ててしまうには、あまりに人生は短いように思われます。旅行にしても、点から点への旅から、線の旅、面の旅にと移るにつれて、楽しみも変わってくるでしょう。

過程がわかるようにも残すために、仕事をしながらメモを取るようにしたりしています。週間レポートという形で、感想文を取りまとめて自分の成長を記録しています。音楽指揮者小沢征爾が言うのを聞いたことがあります。彼が最も気を使うのは、オリジナリティだのことでした。**オリジナリティ**とは私にとっては「自分で自分なりの生き方を創り出す。」